

## グループインタビュー②

参加団体	重要	困難・課題
高知市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、障害者、子ども、それぞれの専門部署が連携して地域問題に取り組むこと</li> <li>・災害ボランティアセンターの運営について、社協の役割は単にその運営だけでなく、平時から非常時そして最終的にまた平時へ戻すこと。そのためにもいかに日頃のネットワークを築いておくかが大切</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SOSが出せない人にとっては、いくら相談窓口を作っても相談できない。そういった方たちの問題をどう解決してあげるか</li> <li>・同じような組織、会議があって同じような役割を持たず。屋上屋を重ねないようにしなければならない</li> </ul>
高知市民生委員児童委員協議会連合会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の見守り役の不足（民生委員70名の不足）</li> <li>・やるが多すぎて、地に足の着いたことができない。今やっている取組を見直して更新していくことができない</li> <li>・地域のために一生懸命取り組んでいるのに、学校側に信頼してもらえない。管理職以外とはお話ができない</li> <li>・学校の先生との繋がりがあつたら、児童を支える・見守る立場としてもっとできることがあると思う</li> </ul>
下知地区減災連絡会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会防災会とマンション防災会をつなげる方法→「おしゃべりカフェ」（日頃のつながりが見守りになり、もしものときの支え合いになる）</li> <li>・昭和小学校との連携（子どもを介して家庭が見える）</li> <li>・集まる場をいろんな形で仕掛けていくこと</li> <li>・ジェネレーションギャップや働き方改革の受入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者対策は地域の防災組織だけではできない</li> <li>・持ち家、賃貸、マンションに住む人同士の連携。地域住民のつながりの希薄さがネック（防災だけでなくごみ問題も）</li> <li>・学校と協働で活動したくても、学校の先生が多忙で提案できないこともある</li> <li>・課題を少しでも前へ進めるために、行政がもう一歩踏み出してくれること</li> </ul>
春野地区小・中学校運営協議会（地域代表）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だけ、先生だけ、保護者だけ、地域だけでなく、そこをつなげていくことを目的としている</li> <li>・地域・保護者・学校で子どもを育てるためのコミュニティスクールであることを皆が理解すること。何か問題があればすぐに教育委員会へ電話するのではない。それでは何の解決にもならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には「やる気のある人」「できる人」がいるのに、それを知ってつなげていく人がいない。（田舎だからこそそのつながりを活用したい）</li> <li>・学校側の規制（時間外労働や休日出勤、個人情報の問題）</li> </ul>

### 課題・困難を乗り越えていくためにどんな連携・協働があるか

持ち家・マンション・賃貸物件の住民のつながり

事例①（マンション防災会を自分たちで作ったことで、防災活動が我が事になり参加者が増えた）

↓  
顔見知りが増えて、日頃のつながりができた

集まる場所をいろんな形で仕掛けていく

事例②（町内会防災会とマンション防災会での交流、「おしゃべりカフェ」）

事例③（夏休みのラジオ体操が、世代を超えたつながりや地元企業の協力で広がっている）

学校や地域の方に民生委員をもっと信用・信頼してもらう

働き方改革、学校の先生の在り方の変化を受け入れた上で地域活動を展開する仕組みが必要

限られた時間・空間・人の中でできることを

縦割りではなく分野ごとの専門職が横の連携を強めて地域に関わっていくこと

民生委員の本来の役割の整理

地域のやる気のある人、できる人同士をつなげていく

役割ではなく、両隣を見守ることが自然とできればいい

地域からの“要望”を“やってあげる”ではなく、課題を把握し、少しでも前進するようにお互い意識する。パートナーシップを築くことが大切

屋上屋を重ねない

5時半以降（時間外）はボランティアで地域で活動する